



「イーストスプリング・インド株式オープン（資産成長型）」を設定

PRESS RELEASE

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長 兼 CEO 関崎 司）は本日付で「イーストスプリング・インド株式オープン（資産成長型）」（以下、「当ファンド」）を設定いたしました。

当ファンドは、モーリシャス籍外国投資法人「イーストスプリング・インベストメンツ・インド・エクイティ・オープン・リミテッド」への投資を通じて、主としてインドの金融商品取引所に上場されている株式に実質的な投資を行い、中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。運用にあたるのは、当社のグループ会社のイーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）リミテッドです。

インドは約 13 億人と世界第 2 位¹の人口を有し、若年層に厚みがある豊富な労働力と、消費拡大の可能性を持つアジアの超大国です。2017 年 10-12 月期の実質 GDP（国内総生産）成長率は前年同期比で+7.2%と、BRICs（ブラジル、ロシア、インド、中国）諸国の中では最高となりました²。2018 年から 2022 年の GDP 成長率の予想平均も前年比 +7.9%³と継続的に高い経済成長が期待され、2030 年には日本を抜いて世界第 3 位の経済大国になる見込みです⁴。2014 年 5 月の誕生以来、強力なリーダーシップにて諸改革を推進してきたモディ政権にとって、2017 年も力強い歩みの年となりました。GST（物品・サービス税）の導入による間接税体系の一本化、2016 年 11 月に実施した旧高額紙幣廃止による電子決済の急増及び銀行口座数の増加、それに伴う個人投資家層の拡大、及び高速道路や鉄道網の建設等インフラ整備の加速等が主な支援材料となり、2017 年はインド株式市場にとっても大きな飛躍の年となりました。

このように経済成長を続ける現在のインドは、1960 年代の高度経済成長期の只中にあった日本の状態と類似しており、今後も力強い経済成長を続けることが期待されます。弊社では「イーストスプリング・インド株式オープン」（2004 年 9 月設定）及び、「イーストスプリング・インド株式ファンド（3 ヵ月決算型）」（2007 年 12 月設定）を多くの投資家の皆様にご利用いただいていた。そしてこの度、このインドへの投資機会のさらなる拡充を目指して、従来の年 1 回決算型、3 ヵ月決算型に加え、分配水準の決定においてより元本の成長を重視する「資産成長型」を設定する運びとなりました。

【インド株式の魅力】

① 企業収益拡大への期待

モディ政権が進める諸改革に後押しされた今後の企業収益の拡大期待を背景に、現在、インドの株価指数は史上最高圏で推移しています。この傾向は向こう数年間続くと見られており、インドの代表的な株式指数である SENSEX 指数の 2018 年から 2020 年までを見ても 1 株あたり利益の年平均成長率見込みが約 20%⁵と、さらなる企業収益の拡大が見込まれています。

Eastspring Investments Limited
Marunouchi Park Building, 2-6-1 Marunouchi
Chiyoda-ku, Tokyo 100-6905
www.eastspring.co.jp

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社
〒100-6905 東京都千代田区丸の内 2-6-1
丸の内パークビルディング
www.eastspring.co.jp

② 経済規模との比較でみた、さらなる上昇の可能性

現在、インド株式市場の株価の水準は過去最高値圏にあるものの、同国では高い経済成長が続いているため、経済規模との比較でみると過熱感は見受けられません。一般的に株式市場はその国の経済規模（名目 GDP）の成長と共に拡大する傾向があり、SENSEX 指数も今後さらなる上昇の余地があると考えられています。

<SENSEX 指数と、インドの名目 GDP の推移（2003 年末～2022 年末）>



出所：Bloomberg L.P.、IMF 世界経済見通しデータベース（2017 年 10 月）のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。*SENSEX 指数は 2018 年 2 月末までの実績値。**2018 年以降の名目 GDP は IMF の予測値。

③ 拡大するインド国内投資家の株式投資

インドの国内投信からのインド株式への流入額は、2015 年から 2017 年の 3 年間で約 360 億米ドルに上り⁶、同市場への外国人投資家の純流入額を大きく上回る水準となっています。とりわけ積立投資を通じた資金流入は加速しており、近年拡大を続けるインド株式市場を下支える大きな要因の一つとなっています。

当ファンドの設定にあたり、弊社代表取締役社長兼 CEO である関崎 司は、次のように述べています。「インド市場は中国に次ぐアジアの超大国として、今、世界中の投資家の熱い視線を集めています。現在、弊社では株、債券の計 6 本⁷ のインドを投資対象とする国内公募投信を通じて、多くの投資家の皆様にこの成長著しいアジアの超大国インドへの投資機会をご提供しております。日本の個人投資家の皆様の資産運用を取り巻く環境が大きく変化しつつある中、分配水準の決定においてより元本の成長に着目する「資産成長型」の選択肢を新たに追加することにより、より一層、多くの投資家の皆様に弊社のインド関連商品を資産運用にお役立ていただくことを願っております。」

弊社ではグループのグローバルネットワークを最大限に活用して、引き続き日本の投資家の皆様の中長期的な資産形成に貢献できるよう、邁進してまいります。

出所：

- 1,3 IMF 世界経済見通しデータベース（2017 年 10 月）。
- 2 Bloomberg（2018 年 3 月 13 日時点、ロシアのみ予測値）。
- 4 PwC “The Long View How will the global economic order change by 2050? February 2017”。
*PwC がイーストスプリング・インベストメンツの特定の金融商品等を推奨するものではありません。
- 5 Bloomberg（2018 年 3 月 20 日時点）。
- 6 Kotak International Securities。
- 7 イーストスプリング・インド株式オープン、イーストスプリング・インド株式オープン（3ヵ月決算型）、イーストスプリング・インド消費関連ファンド、イーストスプリング・インド・インフラ株ファンド、イーストスプリング・インド公益インフラ債券ファンド（毎月決算型）／（年 2 回決算型）。

【イーストスプリング・インベストメンツについて】

イーストスプリング・インベストメンツは、世界有数の金融サービスグループを展開する最終親会社のアジアにおける資産運用事業部門です。イーストスプリング・インベストメンツは 2017 年 12 月末時点で約 1,389 億ポンド（約 21 兆円、1 ポンド=151.95 円）の運用資産を有するアジア最大級の資産運用会社であり、最終親会社は 165 年以上の歴史を有し、英国、米国、アジアなど世界各国で金融サービス業務を提供しています。

イーストスプリング・インベストメンツは日本をはじめシンガポール、香港、韓国、インドネシア、マレーシア、台湾、ベトナム、ルクセンブルグ、米国、英国で資産運用事業を展開し、さらに中国、インド、香港では合併事業を行っています。現在では 13 のマーケットで資産運用事業を展開しています。

【イーストスプリング・インベストメンツ株式会社 会社概要】

- ◆ 設立： 1999 年 12 月
- ◆ 資本金： 6 億 4,950 万円
- ◆ 住所： 東京都千代田区丸の内 2-6-1 丸の内パークビルディング
- ◆ 登録番号： 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 379 号
- ◆ 加入協会： 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
- ◆ ホームページ： <http://www.eastspring.co.jp/>
- ◆ 運用資産残高： 約 1 兆 1,025 億円（2017 年 12 月末時点）

【本プレスリリースに関して】

- ※当資料は、報道関係の皆様に向けて作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- ※当資料は、投資勧誘を目的とするものではありません。

投資信託のお申込みに関してご留意いただきたい事項

- 当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。
- 当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料では、個別企業に言及することがありますが、当該企業の株式等について組入の保証や売上の推奨をするものではありません。
- 当資料では、外国籍投信に言及することがありますが、当該外国籍投信の売上の推奨・勧誘を行うものでもありません。
- 当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。

投資信託に係る費用について

投資信託では、一般的に次の手数料・費用をご負担いただけます。その料率は投資信託毎に異なりますので、詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をご覧ください。以下は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が設定・運用する全ての投資信託のうち、投資者のみなさまにご負担いただく各費用における最高の料率を記載しています。

- 購入時手数料〔**最高料率 3.78% (税込)**〕：投資信託の購入時におけるファンドや関連する投資環境の説明および情報提供、購入に関する事務手続き等の対価として、販売会社にお支払いいただくものです。
- 信託財産留保額〔**最高料率 0.3%**〕：投資信託の換金時に直接ご負担いただくものです。
- 運用管理費用（信託報酬）〔**実質最高料率 年率1.998% (税込)**〕：純資産総額に対して一定の料率を、信託財産を通じ間接的にご負担いただくものです。
- その他の費用・手数料：信託事務の処理等に要する諸費用（監査費用、目論見書および運用報告書等の印刷費用、公告費用等）、組入有価証券の売買時の売買委託手数料、外国における資産の保管等に要する費用、信託財産に関する租税等についても、信託財産を通じ間接的にご負担いただけます。

※その他の費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を表示することができません。

※上記費用の合計額については保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

投資信託のお申込みに関してご留意いただきたい事項

- 投資信託は、預貯金および保険契約ではなく、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護および補償の対象ではありません。また、登録金融機関で取扱う場合、投資者保護基金の補償対象ではありません。
- 過去の実績は、将来の運用成果を約束するものではありません。
- 投資信託は、株式、公社債等の値動きのある有価証券（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、ご購入時の価額を下回ることもあり、投資元本が保証されているものではありません。これらに伴うリスクおよび運用の結果生じる損益は、すべて投資者のみなさまに帰属します。
- ご購入の際は、あらかじめ販売会社がお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等（目論見書補完書面を含む）の内容を必ずご確認のうえ、投資のご判断はご自身でなさいますようお願いいたします。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号

加入協会 一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会